

## VI 魚類（菅 政幸、黒羽 寿雄）

### 1. 魚類の生息状況

西那須野地区・塩原地区における魚類の生息可能域は、その殆どが塩原地区の箒川及びその支流群である。

なお、塩原ダム上流の支流群は流程があり、また急峻な谷も多いため、今回の調査では未調査となっている支流や箇所が多数あることを付記しておく。

また、今回の調査に当たっては、動物部会（爬虫類・両生類）の君島章男委員に、多くの情報提供並びに生息可能域の示唆あるいは現地案内を受けている。深く感謝申し上げる。

#### （1）西那須野地区

西那須野地区には、黒磯地区の那珂川及びその水系から取水する那須疏水及びその分水（第3、第4分水）や那須疏水から取水する赤田調整池及びそこから流出する用水路など、地区内に多数の水路（細流）が存在する。

しかし、人工の用水路という性質上、その殆どの箇所が魚類の生息には適していない。

取水口等から流入する魚類が全くいないというわけではないが、用水路等において自然な世代交代をすることは困難な状況である。

なお、今回の調査では、西那須野地区内の池でメダカの生息が確認された。しかし、生息に至った経緯は明らかでない。

#### （2）塩原地区

塩原地区の箒川は、那珂川最大の支流であり、塩原ダムを境として上下二つの地域に大別される。

##### ①ダム下流域

下流域には、アユをはじめヤマメ、ウグイ、オイカワ、カワムツ、カジカなど、那珂川中流域に生息する魚類が各種生息しているが、近年各地で問題になっているカワウによる食害で、特にウグイの個体数がかなり減少しているとの印象を受けた。

なお、本流右岸からの支流として野沢川、唐滝沢などがあり、カジカなどが生息している。一部アブラハヤが生息している沢もある。

##### ②ダム上流域

上流域の本流には、ウグイ、カワムツなどが多数生息するほか、塩原漁業協同組合によりアユ、ニジマス、ヤマメ、イワナが定期放流されている。ニジマスはその殆どが遊漁期間中に釣られてしまうものの、一部は残存し、世代交代をしているものと推測される。ヤマメ、イワナは河川での自然繁殖による世代交代も行われている。

本流の源流域には、主としてヤマメ、イワナが生息しているが、一部ニッコウイワナが生息している沢もある。

本流及び本流への合流付近の支流群で、流れの緩やか場所など、環境によっては、アブラハヤ、ドジョウ、カジカなどが生息している。また、一部の箇所ではイトヨの生息を確認している。

本流右岸に鹿股川、甘湯沢、追沢、大塩沢、赤川などがあり、ヤマメ、イワナが生息している。また、それぞれの沢は上流で枝分かかれし、イワナの生息域となっているところが多い。

左岸には赤沢、シラン沢、善知鳥沢などがある。シラン沢は、水質が適さないため、魚類は生息していない。なお、善知鳥沢の源流域の一部には、ニッコウイワナが生息しているが、その数は多くはない。

### (3) 調査結果の概要

今回の調査においては、現地調査で直接確認できた種を対象とし、目録を作成している。

調査の結果、西那須野地区・塩原地区で確認された魚類は、8目、11科、22種（種数・亜種数の累計）である。

なお、今回の調査においては、サクラマスを確認することができなかったが、ビワマス又はビワマスとサクラマスとの交雑種であると考えられる個体（死骸）を1尾採取できた。しかし、人為的な投棄等の可能性があるため、目録から除外している。

【表VI-1-(3)-1 魚類調査結果一覧】

目名	科数	種数
ヤツメウナギ目	1	1
サケ目	2	5
コイ目	2	10
ナマズ目	1	1
ダツ目	1	1
トゲウオ目	1	1
スズキ目	2	2
カジカ目	1	1
計	8目	11科 ※22種

※種数・亜種数の累計。

## 2. 保全すべき種

### (1) スナヤツメ（ヤツメウナギ科） 環境省：絶滅危惧Ⅱ類、栃木県：絶滅危惧Ⅱ類

箒川本流の東北縦貫自動車道から宇都野橋上流の高阿津の区間で確認している。

### (2) ニッコウイワナ（サケ科） 環境省：情報不足、県：要注目

箒川本流の最源流及び善知鳥沢上流の支流で確認している。

本県における在来種のイワナである。側線から腹側にかけて瞳と同大かそれよりもやや大きい黄色や橙色の斑点が見られるのが特徴である。

長い間、漁業組合によってアメマス系のイワナ（側線から腹側にかけて瞳と同大か又はそれよりもやや大きい白色の斑点があり、養殖が比較的容易である）の放流が繰り返されている。その結果、在来のニッコウイワナはアメマス系のイワナと交雑し、純粋な個体数は激減してしまっているというのが現状である。

### (3) アブラハヤ（コイ科） 環境省：－、栃木県：要注目

上塩原の箒川本流、下塩原の箒川本流及び宇都野（根古屋）の唐滝沢で確認している。なお、黒磯地区では、郷川の一部でしか確認できていない貴重種である。

### (4) オイカワ（コイ科） 環境省：－、栃木県－

箒川本流の東北縦貫自動車道から宇都野橋上流の約1kmの区間で確認している。個体数が少ない。

### (5) ギンプナ（コイ科） 環境省：－、栃木県－

箒川本流の東北縦貫自動車道から宇都野橋上流の高阿津の区間で確認している。個体数が少ない。

**(6) シマドジョウ (ドジョウ科) 環境省：一、栃木県：準絶滅危惧**

箒川本流の東北縦貫自動車道から宇都野橋上流の高阿津の区間で確認している。

**(7) ホトケドジョウ (ドジョウ科) 環境省：絶滅危惧ⅠB類、栃木県：絶滅危惧Ⅱ類**

上塩原の箒川上流、中塩原の箒川支流の細流、下塩原の箒川本流及び宇都野（町井）の箒川支流の細流で確認している。

**(8) ギバチ (ギギ科) 環境省：絶滅危惧Ⅱ類、栃木県：準絶滅危惧**

箒川本流の東北縦貫自動車道から宇都野橋上流の高阿津の区間で確認している。

**(9) メダカ (メダカ科) 環境省：絶滅危惧Ⅱ類、栃木県：絶滅危惧Ⅱ類**

西那須野地区の池で確認している。

**(10) イトヨ (トゲウオ科) 環境省：地域個体群、栃木県：絶滅危惧Ⅰ類**

上塩原の箒川本流及び下塩原の箒川本流で確認している。

### 3. 保全すべき地域

**(1) 西那須野地区の池**

西那須野地区内の池（メダカの生息域）

**(2) 宇都野（根古屋）の唐滝沢**

県道矢板那須線の根古屋橋から上流（アブラハヤの生息域）

**(3) 宇都野（町井）の箒川支流の細流**

県道矢板那須線の橋から上流（ホトケドジョウの生息域）

**(4) 上塩原地区の箒川本流**

国道 400 号の宮崎橋から上流の小滝橋の区間（アブラハヤ、ホトケドジョウ及びイトヨの生息域）

**(5) 箒川上流の元尾頭沢**

国道 400 号の橋から上流（ニッコウイワナの生息域）

**(6) 善知鳥沢上流の支流**

シラン沢林道入口より上流の左岸から流入する沢（ニッコウイワナの生息域）

### 4. 保全への提言

魚類の場合、漁業権の問題があることや、他の種と混生して生息している地域が多いことなどの理由から、河川の一定地域を指定しての保全には難しい面があると思われる。

しかし、「保全すべき地域」とした（2）～（6）の地域については、限られた極一部の地域であるため、漁業組合との協議の上で、永年禁漁区とするなどの方法で保全地域とすることは可能であると思われる。また、（1）の西那須野地区の池に関しては、漁業権の問題は発生しないため、現状の保全に努めるべきであると考えられる。

一方、黒磯地区鍋掛のイトヨは、市の天然記念物に指定されているが、塩原地区のイトヨにおいても何らかの形で保全されるべきと考える。

ただし、西那須野地区のメダカ及び塩原地区のイトヨに関しては、本来、当該地域に生息している固有の種（在来種）であるかどうか、今後、詳細な調査が必要になると考える。

**（文責：菅 政幸）**

**【目録】**

※目・科の分類、目・科・種の配列、和名・学名に関しては、「環境省第5回自然環境基礎調査 生物多様性調査 動物分布調査報告書（淡水魚類）」（自然環境研究センター 2002）の対象種一覧表に準じた。ただし、カワムツの学名に関しては、最新の見解に従った。

※一部の種において、亜種も掲載した。

科名	和名	学名	A 地域	B 地域	C 地域	山岳 地域
ヤツメウナギ目						
ヤツメウナギ科	スナヤツメ	<i>Lethenteron reissneri</i>			○	
サケ目						
サケ科	イワナ	<i>Salvelinus leucomaenis</i>				○
	ニッコウイワナ	<i>Salvelinus leucomaenis pluvius</i>				○
	サケ	<i>Oncorhynchus keta</i>			○	
	ヤマメ	<i>Oncorhynchus masou masou</i>			○	○
アユ科	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>			○	
コイ目						
コイ科	ウグイ	<i>Tribolodon hakonensis</i>			○	○
	アブラハヤ	<i>Phoxinus lagowskii steindachneri</i>				○
	オイカワ	<i>Zacco platypus</i>			○	
	カワムツ	<i>Nipponocypris temminckii</i>			○	○
	モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>		○		○
	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>		○		
	ギンブナ	<i>Carassius auratus langsdorfii</i>			○	
ドジョウ科	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>		○	○	○
	シマドジョウ	<i>Cobitis biwae</i>			○	
	ホトケドジョウ	<i>Lefua echigonia</i>				○
ナマズ目						
ギギ科	ギバチ	<i>Pseudobagrus tokiensis</i>			○	
ダツ目						
メダカ科	メダカ	<i>Oryzias latipes</i>		○		
トゲウオ目						
トゲウオ科	イトヨ	<i>Gasterosteus sp.</i>				○
スズキ目						
サンフィッシュ科	オオクチバス	<i>Micropterus salmoides</i>			○	
ハゼ科	トウヨシノボリ	<i>Rhinogobius sp.OR</i>		○	○	
カサゴ目						
カジカ科	カジカ	<i>Cottus pollux</i>			○	○

## 【参考文献・引用文献】

- 財団法人自然環境研究センター（編）. 2002. 自然環境保全基礎調査 生物多様性調査 動物分布調査  
報告書（淡水魚類）. 環境省自然環境局生物多様性センター, 山梨.
- 川鍋浩哉・水野信彦（編）. 1992. 日本の淡水魚. 山と溪谷社
- 斎藤辯. 1979. 栃木の魚. 月刊さつき研究所